

鳥取 会 報

第 29 号

2015年 1月



目次

新年のあいさつ (連合会会長)	2	表紙	シルバー人材センターの紹介 (湯梨浜町、八頭町)	16~17
新年のあいさつ (鳥取労働局長)	3		会員の広場 (米子広域、日南町)	18~19
理事長の抱負	4~9	◇	趣味のひととき (鳥取市)	20
平成26年度事業実施状況	10~11		鳥取県の最低賃金	21
平成26年度SP事業実施状況	12~13		正会員名簿等	裏表紙
講習会に参加して	14~15			

公益社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

新年のごあいさつ



公益社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

会長 宇野 浩 己

新年あけましておめでとうございます。

シルバー事業の運営につきまして、皆様のかいご理解とご協力をいただき、着実に事業活動が進展していますことを心から厚くお礼申し上げます。

会員の皆様の日頃からの活動を通じて「福祉の受け手から、社会の担い手へ」という運動の理念が、地域の高齢者並びに地域社会の共感を呼び、幅広く支援され活用されているからだと思います。

ここにあらためて、地域の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

これまでは、定年直後の60歳から64歳までが中心層だったシルバー人材センターも、現在では会員の平均年齢が70歳を超え、しかも75歳以上の後期高齢会員が2割を占めるにいたっています。

高齢法改正により65歳までの雇用については

一定の道筋ができましたので、シルバー人材センターの高齢化は更に進展するものと予測され、地域における後期高齢者層の受け皿としての役割は、益々重要となり且つ高度な事業対応が求められることとなりました。

しかしながら、近年、シルバー事業への政策対応は、公益事業のシエアが低下傾向にあり、また国庫補助金の大幅削減に加え補助内容の見直しなど、この事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。個人家庭へのワンコインサービスや地域の特性を活かした独自事業の開発などにより、この苦境への対応を図っていますが、このように登録会員の高齢化が進むなか、その能力や体力に見合った就業機会を安定的に供給するためには、一定の公共部門からの仕事を確保することが不可欠な状況となっています。

先般、シルバーの未開拓の公共事業として提案された介護予防事業は、今後対象者の範囲を

拡大して「介護予防・日常生活支援総合事業」に変わり、市町村の裁量で配食や見守りの生活支援サービスを含む総合事業となります。この新制度ではプログラムの自由度が広がり、その提供の担い手として高齢者の参画が求められており、一例としてシルバー人材センターの活用が挙げられています。

これを契機に、自治体や地域住民にとって、顔の見えるシルバー人材センター事業となるよう、「介護予防」や「後期高齢者の居場所づくり」を目標に、確かな存在感を示したいものがあります。

本年も「柔軟で多様な働く人を大切に、その希望をかなえる」ことを最大の使命とし社会の支え手として全力で取り組んでまいりますので、皆様方の一層のご指導ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



新年のごあいさつ



鳥取労働局長

河野 純 伴

会員の皆様、新年明けましておめでとうござ
います。

年頭に当たり、新年を寿ぐとともに皆様のご
健勝を心よりお祝い申し上げます。

さて、昨年は、全国的に経済及び雇用の情勢
に一定の明るい兆しが見受けられるなど、我が
国の経済、雇用対策は堅調に推進され、鳥取県
内においても、昨年五月の有効求人倍率が十六
年三か月ぶりに一倍台を回復するとともに、正
社員の有効求人倍率も上昇の傾向が続くなど、
雇用情勢に一定の改善傾向が感じられたところ
です。

また、鳥取県が毎月発表している「鳥取県の
経済動向」によると、昨年度当初の基調判断は
「持ち直しの動きが続く」とされ、雇用につい
ては「着実に改善している」とされたところで
すが、昨年十二月には「足踏み感が強まる」と
され、基調判断としては「一進一退しつつ持ち

直しの動きが続く」と、少し慎重な判断がなさ
れているところです。

一方で、昨年十月の鳥取県の有効求人倍率は
0・九二倍となり、平成二十三年十月から三十
七か月連続で全国平均を下回る状況となってい
ます。

このような、先行きにまだ不透明感が残る雇
用失業情勢の中、我が国は世界に類を見ない速
さで高齢社会が進展しており、今後も社会の活
力を維持していくためには、経済が安定して発
展するとともに、意欲と能力のある高齢者が、
可能な限り社会の支え手として活躍し、年齢に
関わりなく働くことのできる「生涯現役社会」
を実現する必要があります。

このため、鳥取労働局では、企業等に対する
年齢を問わない求人募集の指導、希望者全員が
六十五歳まで働くことのできる雇用確保措置の
導入指導、さらに七十歳まで働くことのできる

制度の積極的普及促進を図るとともに、シルバ
ー人材センター事業の推進により、高齢者が
地域で働ける場や社会を支え活動できる場の拡
大に取り組んでいるところです。

特に、シルバー人材センター事業は、高齢
者の多様な就業ニーズに応じた就業機会の提供
及び社会参加の促進による地域社会の活性化を
図る上で、大変重要な役割を担っており、各シ
ルバー人材センターの役割と取り組みは、高齡
化の一層の進展により、今後ますますその重要
性を増すこととなります。

会員の皆様には、我が国における社会活力維
持等のため、今後も社会の支え手として一層ご
活躍いただきますようお願いいたしますとともに
、シルバー人材センター事業の益々のご発展
と、会員の皆様のご健勝をお祈りして、新年に
当たつてのごあいさつとさせていただきます。



シルバー人材センター

理事長の抱負

公益社団法人 鳥取市シルバー人材センター



理事長 西根 弘康

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年からの雇用関係が改善しつつある中、日本の人口構成は、高齢者層が増大しています。そのため、現在、社会を維持するための労働力不足が深刻化しています。

国においては、労働者の六十五歳定年の制度化、SCに対する派遣事業や有料職業紹介の促進、SCの補助金の原資を労働保険とする雇用勘定への組み替え等、高齢者を大きな労働力と捉え、社会システムの変更を進めざるを得ない状況にあります。年金や社会保険、介護保険等の社会基盤を既存の労働者のみでは支えきれない社会が到来しつつあり、SCは新しい労働力の提供者として、既存の「請負・委任」に縛られず、新しい働き方を積極的に活用し、社会の要望に応じていく必要があると考えます。私どもの鳥取市シルバー人材センターは、公益社団法人に移行して、三年を経過しようとしておりま

すが、センターの運営は順調に推移していると認識しております。また、新たな年を迎えるに当たり、当センターは、平成二十七年からの五年間の計画として「高齢者いきいき雇用促進拡大事業」を鳥取市に提案し、公共事業の拡大を目指しています。

本年は、会員の安全適正就業を最重要課題として取り組む一方、鳥取市をはじめとする行政機関と連絡を密にしなが、より一層地域の信頼を得ていきたいと考えています。終わりに、皆様にとつて、明るく、希望に満ちた良い年になりますことを祈念して、新年のごあいさつといたします。

公益社団法人 米子広域シルバー人材センター



副理事長 後藤 巖

新年あけましておめでとうございます。

シルバー連合会会員・役員、事業関係者の皆様におかれては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。地域の皆様のご支持と米子市・日吉津村など関係機関のご支援・ご協力により、不断の事業運営が図られておりますことを厚くお礼申し上げます。

おかげさまで平成二十五年度事業実績は、久方ぶりに会員数が増加し、契約金額も一・〇%増となりました。適宜、昨年秋季には中央の全国シルバー人材センター事業協会において「会員一〇〇万人達成計画」の推進が関係先に配付されました。その会員増

強・拡大は、就業機会の拡大によって図れるものと考えます。現政権では「地方創生」も重点施策のひとつとなっており、その際地域の高齢者の出番、シルバー人材センターの対応も大きな役割を担うのではと期待しているところです。

さて、運営基盤の補助事業は、平成二十五年度就業機会の開拓活動に係る数値目標を掲げた「機能強化推進事業」と「企画提案方式事業」の事業費補助が平成二十六年、就業の機会及び会員拡大を図り地域の需要に対応する「生涯現役社会活躍応援事業」事業費補助として若干増額となりました。さらに、平成二十七年は特別会計を活用し「労働者派遣事業」など限定的な雇用による就業機会の拡大に取り組む「高齢者活用・現役世代サポート事業」事業費補助も予算要求がなされているようです。

ようやく事業の復調基調でないかと思いますが、一方では連合会名義で平成十九年度から始まった「労働者派遣事業」はシルバー人材センターにとり地域の限定的な需要の対応ですので、三年問題から前年度で契約が終了したものなど影響が顕在しています。

また他方、今後「介護保険制度」から「要支援者」向けサービスが分かれ、該当高齢者向け「介護予防」サービスと合わせて再構築のうえ、早くて来年度以降、「地域総合支援事業」として市町村事業に移行の制度変更について、シルバー事業がその介護予防プログラムや訪問サービス等実施の受け皿になることが非常に有効であるとの指摘、提示があります。新たな就業分野、公的な受注として注目し就業機会の開発、準備も必要となつてまいります。

本年度は「公益社団法人」に移行しました。事業の透明性を図りながら、公益性をさらに発揮し、「自主・自立・共働・共助」の基本理念と自立的・

主体的な「会員」の就業及び社会参加活動による「生きがい就業」事業が、明るく活力に満ちた地域社会づくりの一助となるよう取り組んでまいりたいと思います。

会員各位や地域の皆様の引き続きのご理解・ご協力のお願いと、事業関係者の皆様のご健勝並びにご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



公益社団法人 倉吉市シルバー人材センター

理事長 山脇 誠

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、新年を健やかに迎えのことでお慶び申し上げます。

さて、年末になりますと、一年の世相を漢字一文で表す恒例行事が話題となりますが、昨年は「税」ということでありました。四月からの消費税増税が生活に重くのしかかり、いわゆるアベノミクスによる景気回復の恩恵は、一部の限られた地域や人のみで、多くの方々にとつて、実感の無い一年ではなかったかと思えます。今年こそは皆さんが実感でき、明るく、ゆとりある年になるよう期待しているところです。

一方、少子・高齢社会が進行していく中で、シルバー人材センターの役割はますます重要になってきていると思えます。会員の皆様は、これまでの豊富な知識と経験を活かされ、日常生活に密着した仕事を通して、地域社会に大きく貢献されております。そして、何よりご自身の生きがいや健康増進、経済的自立など、地域社会の中で「支えられる側」では

なくて「支える側」を実践しておられます。

しかしながら、シルバー人材センターの現状は、健康で働く意欲のある高齢者の方は年々増加していますが、会員数の減少、契約件数の減少が続いております。原因の究明と対策を早急に行わなければならないと考えております。

会員の皆様、役職員の皆様がこれまで築いてこられたシルバー人材センターの地域社会での確たる地位をもとに、さらに地域から愛され、利用者から信頼されるセンターを目指して、微力ではありますが取り組んでいきたいと考えております。

この一年が、関係者の皆様にとつて明るい年になりますことを祈念し、新年の抱負といたします。



公益社団法人 境港市シルバー人材センター

理事長 高松 武美

新年あけましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお喜びを申し上げます。

さて、昨年末の衆議院議員選挙により「アベノミクス」の継続が支持され、同時に地方を元気にしようという「地方創生」がスタートすることとなりました。センターにも何か出番がありそうに期待をしております。

しかしながら、当センターを取り巻く現状は、補助金の削減以降契約額の減少、新規会員の減少等に歯止めが掛かっておりません。

団塊の世代の六十五歳到達に伴う新規会員の増加を見込んでいましたが、一向にその兆しが見えてき

ません。会員の拡大はセンターの組織力の強化の上からも重要な課題を捉えています。

現在、女性会員が三十%で他のセンターと比べても低く、女性の就業機会の拡大と合せ女性会員の拡大の取組が課題であると思っております。

女性の仕事は、乳幼児の育児、高齢者の家事援助、見守り、安否確認、介護等掘り起せば多くの仕事があります。平成二十九年度までに全市町村で実施される、生活支援サービス事業に参入を考えています

が、これには女性会員の増員が必須の要件と考えます。またこのような仕事こそが公益法人にふさわしい地域に密着した活動でもあります。

本年も「自主・自立・協働・共助」のもとセンターの発展に力を合せて努めて参る所存であります。本年も変らぬご指導ご協力をお願い申し上げます。



公益社団法人 南部広域シルバー人材センター

理事長 安達 幸男

新年明けましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

近年の本シルバー人材センターは、会員数の減少と受注件数の増加という傾向が徐々に進行しつつあります。会員数の減少については、定年延長や経済的余裕がその理由としてよく挙げられますが、私は原因はそれだけではないと考えています。

公益社団法人になって、会員相互の親睦を図る互助会等の活動は非常に窮屈になりました。しかし私は、今後、これらの活動を活性化し、入会して楽し

いと思っただけのシルバー人材センターを目指すことが必要と考えています。会員の拡大方策についてはこのあたりが今後の鍵を握るとも考えます。受注については、発注者様が従来は自分で行っていた仕事が高齢により困難となり、シルバーに発注というケースが多くなっています。併せて町外、それも首都圏や関西圏から、故郷の留守宅やお墓の掃除などの注文も増えています。

この様に会員の意識や発注内容は時代とともに変化していくなかで、シルバー人材センターもそれに対応すべく、業務や組織運営の形態を変化させていくことが求められます。

具体的には、会員に対しては魅力あるセンターづくり、お客様には遠隔地まで受注対応可能なネットシステムの整備が必要です。また、南部・伯耆両町の皆様には、更なるサービス内容の周知などを徹底し、時代の変化に対応する運営を目指していく所存です。

どうか今年も地域の応援隊・シルバー人材センターをよろしく願います。



公益社団法人 智頭町シルバー
人材センター

理事長 小林 實夫

新年あけましておめでとうございます。輝かしい平成二十七年新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

日ごろ、シルバー事業の運営に、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。シルバー人材センターを取り巻く環境、経済情勢

はますます厳しい状態となっております。地域社会の少子高齢化は一段と進み、地域活力を維持するシルバーの重要性は高まっています。

シルバーの基本理念である「自主・自立・共働・共助」を徹底し公益法人理事長としての責任・自覚を肝に銘じて、地域の人々に必要とされる組織作りと会員増加に努めたいと考えています。

今こそ正念場。地域に親しまれ、培われてきたシルバー人材センター、会員が生き生きと働ける公益法人、地域の方々、企業の方々に喜んで頂ける役員、会員が一丸となって協力して頑張る所存です。高齢者の生きがいの充実と福祉の増進を図るとともに、活力ある地域社会に貢献することに努めます。

終わりに、関係各位のさらなるご支援、ご協力を賜りますようお願いするとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



公益社団法人 岩美町シルバー
人材センター

理事長 谷口 幹彦

新年あけましておめでとうございます。県下会員の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は関係者の皆様の暖かいご支援とご協力のお蔭で、厳しい状況の中でも、着実に事業経営ができました。あらためて厚くお礼申し上げます。

多くの課題を抱える中で、開設以来、実績を積み上げてきました当シルバーも、契約額におきまして減少傾向から脱しつつあり、平成二十六年度は十一月末現在、目標額に今一步となり、年度内には目標

到達という明るいきざしが見えていることは、この上もない喜びであります。会員数はここ数年来、減少を続け、現在、一五六名となっております。会員の拡大ことに女性会員の拡大は、多様化している発注者のニーズに応えるためにも欠かせない重要なことでもあります。

さらに今年は、一般労働者派遣事業を実施する事業所として届け出を行いました。これまでの請負や委任では対応できなかった「発注者の従業員と混在作業」や「指揮命令を受ける作業」など、多様な働き方ができるものと期待しております。

従来の事務局主導から会員主導へと転換し、役員・役員一丸となって事業の拡大にまい進することを決意し、年頭のご挨拶といたします。



公益社団法人 湯梨浜町シルバー
人材センター

理事長 小居 貞歳

新年あけましておめでとうございます。輝かしい新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年5月末に理事長に就任してから7か月が経過するに至りました。この間、諸先輩方のご支援と多くの仲間にご助けていただき円滑に重責を果たすことができました。

当センターは公益法人としての活動を約2年間行ってきましたが、公益目的の事業展開としては「勤労意欲のある人への就労支援」と「地域社会の健全な発展に寄与する」ことを理念として鋭意奮闘中でございます。

昨年は、公共施設管理に関係する受注機会の拡大を重点的に取り組んでみましたが、数字的には微増となりました。当センター管内には県立公園を始めとする公共施設の維持管理業務に民間事業者との競合しない部分で大いに推進していけるのではないかと実感いたしております。

平成二十七年度は、当センターにとってシルバー事業の基礎部分を拡大する年度となります。本年度から始めた職業紹介事業に続いて三本柱となる「労働者派遣事業」の事業所開設を目指します。これらの事業の成功のためには県連合会の絶大なご支援をいただきたくよろしくお願い致します。

この一年が、関係各位にとって明るく楽しい年になりますことをご祈念申し上げます。



公益社団法人 琴浦町シルバー
人材センター

理事長 田中 明

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、公益法人二年目の年であり、健全な経営や運営体制の充実を図るべく、会員や就業の確保に力を入れてまいりました。その成果もあってか、会員数・契約金額共に伸びてきております。しかし内容的には、剪定や障子・襖の張り替え等の技術を持った会員確保が困難な状況にあります。今後とも需要が増す中でありながら、十分に応えきれないのが現状です。

少子高齢化が急速に進む今日において、我々高齢

者が生涯現役として、多様な形で社会参加することが求められており、小さな仕事や活動ではありながらも、シルバー人材センターの担う役割は一層重要なものになっていっていると感じております。

特にわが町のような顔の見える地域にあっては、地域に密着し信頼されることが大切であり、シルバー人材センターに寄せられる期待は大きいものがあります。

日々の安全就業に心がけ、安心して仕事が請けられるよう、明るく魅力あるシルバーとして、会員や役員が一致団結して取り組んでまいり所存です。

また、当センターは一月に事務所の移転を行います。旧保育園施設のあと利用ですが、改修により多世代交流施設として生まれ変わりました。名称も、すこやか交流館「アエル」と名付けられ、すでに放課後児童クラブ等が入り活動を行っています。多くの方がふれあえる・学びあえる・そして支えあえる場としての思いが込められています。我々も子どもたちから元気をもらい、切磋琢磨しながら新たな展開を模索していきます。

皆様のご指導・ご支援をお願いしてご挨拶いたします。



公益社団法人 北栄町シルバー
人材センター

理事長 日置 勝彦



あけましておめでとうございます。今年が皆様にとりまして、素晴らしい年になりますようにご祈念申し上げます。

さて、昨年末の総選挙により自公連立政権が継続することとなりました。景気の回復が図られ、雇用の促進や格差の是正、社会保障の充実はもとより、多くの政治課題が徹底論議のうねり推進されることを願うとともに、地方の活性化が図られ、シルバー事業の運営にも好環境が反映されることを期待するところです。

ところで、シルバー事業の現状は、会員の高齢化による事業費の低迷や、会員の減少など組織の弱体化が危惧されています。当シルバーにおいては、専門員を配置し派遣による業務を開拓するほか、農業部門、高齢者世帯や空き家対策を進め、就業機会の拡大により事業実績の向上をめざし、会員拡大については理事・会員の協力を求め、安全適正就業の推進により組織強化を図りたいと思います。

特に、会員拡大については、団塊の世代が六十五歳に達する中で、この年代の会員をシルバー会員として勧誘し、力強く事業展開するとともに、会員が楽しく安全に就業できる環境づくりに配慮し、北栄町シルバー人材センターが、公益法人として地域の皆様に信頼される組織として発展するよう取り組んでまいりたいと思っております。

公益社団法人 大山町シルバー

人材センター



理事長 近藤 昭夫

新年明けましておめでとうございます。

鳥取県シルバー人材センター連合会会員及び各センターの会員におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年十一月下旬に広島で中国ブロックの役職員交流会が開催されました。その中で先進国三十数カ国が加盟しているOECDでは、日本のようなシルバー人材センター(以下「SC」)のような組織がなく、各国とも高齢化が進み、その対策も見つからず日本に注目を強く寄せているとの説明がありました。

しかし、各SCはそれぞれ大なり小なり問題を抱えており、大山町も然りであります。派遣事業に取り組んでいるのは一社のみで、しかも三年問題でこの三月で中止せざるを得ない状態にあります。大山町では企業が少なく、そう簡単に派遣事業に取り組んでくれるような企業の探索が困難であります。しかも派遣事業の取り組みが少ないと、補助金の減額の可能性があると聞いております。今後のSCの運営に支障を来すことがなければと危惧しているところです。

よって、本年の最大の希望は、派遣事業の取り組みをしてくれる企業を見つけることが第一と考えております。次に、会員の入会促進、企業訪問等による就業場所の促進が第二であり、併せて、交通事故も含めた安全就業の確立を目指して、本年は頑張つて行く所存であります。

最後になりましたが、関係各位のご支援、ご協力

をお願いし、皆様方のさらなるご健勝とご多幸を祈り申し上げます。

一般社団法人 八頭町シルバー

人材センター



理事長 衣笠 春壽

新年あけましておめでとうございます。

八頭町シルバー人材センターの理事長に選任され、七年目の新年を迎えるところです。おかげ様でシルバー事業の実績は順調に推移して、新年を迎え感謝するところではありますが、広く世の中、社会の情勢を見ますと、とても安閑としていられるものでもありません。

地球温暖化の影響で各地での異常気象の散発、頻発、様々な厳しい、苦しい、悲惨な状況に亡くなられた人々、被害にあわれた人々にどのようなお見舞いすれば心から尽くされるか、日々が沈むような気持ちであります。又、世界の国々での財政の破綻、安定しない経済、我が国においても年末の選挙、政治もまさに大変な時代、社会の先のない様相に難しい日々を過ごしているところです。さて、町村合併十年を迎えた八頭町ではありますが、多分にもれず人口減少、超高齢化、少子社会、集落の存続危機、まことに課題の多い時代を迎えております。三〇%を超える高齢化の中でのいよいよシルバー人材センターの正念場、会員を増やす、特に女性会員を増やすことに専心集中する年が来たように思います。辛いにも行政の支援に恵まれ、又、年々地域との連携もなごやかに、会員の方々が生き生きと、シルバーでの仕事を生きがいとして信頼を得ている現在で

ありますから、これを力に何とか会員増を図り、よ

り地域に貢献する一年にしたいと念ずるところです。

最後に安心安全な事故のない就業を第一に、会員の皆様とともに、併せて皆様のご支援とご協力をいただきながら、明るく活力あるシルバーをめざしての年頭のご挨拶といたします。

江府町シルバー

人材センター



理事長 山本 信男

新年明けましておめでとうございます。

シルバー連合会・会員をはじめ、事業関係者の皆様には、来年の新春を健やかに迎えのこととお慶びも申しあげます。

さて、近年は、東日本大震災・巨大台風・豪雨災害・四国地方の豪雪等々自然災害が多く発生し、その上わが国では、15年来のデフレ経済により社会生活が混乱し、国中が先が見えない状況となっております。

国内では、TPP、中国・韓国との領土権の問題、社会保障制度の充実等々、未解決の難題等が山積しているなか、アベノミクス効果で日本経済に光明が現れはじめたと言われ始めていると言われておりますが、地方においては、いまだその実感とは程遠い現状です。

このような時、江府町シルバー人材センター理事長を拝命し、暗中模索の3年あまりを何とか無事に過ごしてまいりましたことは、会員の皆様の努力と、関係各位のご指導のお蔭と感謝いたしております。当シルバーは、県下最小・最弱なシルバー人材セ

ンターと自覚しております。

しかしながら、逆に小さいがゆえにできることもあると考え、今年も「自主・自立・協働・共助」を理念にすえ、「小さくてもキラリと輝くシルバー人材センター」「会員同士お互いの顔が見えるシルバー人材センター」「地域の皆様から重宝がられるシルバー人材センター」の三つを活動の礎とし今年も活動してまいります。

魅力あるシルバーセンターとすることは、極めて困難な社会情勢であります。今年が明るくて魅力あるシルバーセンターとなることを信じ、各自の健康に留意しながら、小さなことを積み重ねてまいります。

このことが、地域住民の皆様・会員の皆様にとって魅力あるシルバーセンターにつながることを確信しております。

今年も、「安全・安心 明るく活力ある地域・魅力あるシルバーセンター」とするため、より一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、東日本大震災をはじめ国内で発生した自然災害・原発事故からの一日も早い復興・復旧・脱却を祈念し年頭のごあいさつとさせていただきます。



日南町シルバー人材センター

会長 池岡 利行

新年あけましておめでとうございます。

各シルバー人材センターの会員の皆様と共に、本年が平穏で実り多い年であることを祈念いたします。

さて、地域社会は年々高齢化が進み、存続が危ぶ

まれる状態の所も始めているとも言われ始めました。本町も例外ではなく、人口流出や出生減により、町の状態は厳しさを増しています。シルバー会員の減少、就業機会の年々の減少等、対応策が求められています。特効薬がないのが現状のようです。

こうした状態を少しでも改善しようと次のような努力をしています。先ずシルバー会員全員が他人の気持ちになって物事を考え仕事をし、楽しく明るい雰囲気を作る。他人の悪口を言わない。集いたくなく仕事場づくりが何より大切だと思います。また、受注のあった仕事は素早く対応し、丁寧な仕事と格安な料金になるよう努め、発注者の方に喜んでいただける仕事をする。また、知合いの方に仕事を勧めたいただくようお願いしています。

これからも沢山の要望に応えられる態勢づくりに励みたいと思っています。



三朝町シルバー人材センター

理事長 馬野 忠嗣

新年明けましておめでとうございます。

皆様には輝かしい平成二十七年の新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年十二月に行われた衆議院選挙は大方の予想どおり、自民党の大勝となりました。ゆれ動く政治、経済、高齢者にとつて一連の社会保障制度問題など、有り余る課題があります。私達もしっかり発信し、政治への関心を高めたいと思う一人であります。また、異常気象による数々の災害等、きわめて不安定な昨今でありました。

安全・安心、そして夢多き日々を願う会員みなさま共々、今年こそ良き年でありますよう願ってやみません。

さて、当センターは設立十三年を迎えました。会員六十名ほどの小さい組織ながら年々、業務実績を伸ばし今日に至っておりますが、新年度にあたり高齢者組織の中での高齢化問題を中心に、シルバー人材センターの今後のあり方を検討してまいります。

振り返ってみますと、私達の作業は、きつい・汚いのいわゆる3Kに近いものが大半を占めております。一つには、業務の内容、配分金は適正であるのか、また会員の平等性、共通理念は守られていくのか等であります。

シルバー人材センターが未永く、地域の高齢者組織として存続し、また少なからず社会貢献につながる組織であることに、検討の思いがあります。

シルバー人材センター会員としての、楽しみ・喜びが共有できる良き一年でありますよう祈念し新年のご挨拶といたします。



平成二十六年事業実施状況

○第一回理事会

平成二十六年六月十三日（金）鳥取市において開催。

審議された議案は次のとおりでいずれも原案のとおり承認されました。

議案

第一号議案 平成二十六年総会日程（案）について

第二号議案 平成二十五年事業報告（案）の承認について

第三号議案 平成二十五年補正予算（案）について



第四号議案 平成二十五年収支決算（案）の承認について

〔監査報告〕

第五号議案 平成二十六年補正予算（案）について

第六号議案 役員を選任について

第七号議案 保存期間が終了した会計関係書類の処分について

本理事会の議案は六月二十日開催の定時総会においても承認されました。

○第二回理事会

十月二十日（月）倉吉市において開催。

議案

第一号議案 会計処理規程改訂（案）について

第二号議案 平成二十六年収支補正予算書（案）について

○安全・適正就業推進委員会

六月四日（水）倉吉市において開催（出席者十三名）。

議題

(一)平成二十六年安全・適正就業推進事業基本計画（案）について

(二)平成二十五年事故（傷害・賠償）発生状況及び安全・適正就業パトロール実施状況について

(三)平成二十五年活動拠点センターの安全・適正就業の具体的な取り組みについて

(四)平成二十六年安全・適正就業研修会について

○第一回事務局長会議

六月十一日（水）倉吉市において開催。

議題

(一)労働局から労働者派遣事業等について説明
(二)第一回都道府県連合事務局長会議伝達

○安全・適正就業研修会

七月十五日（火）各シルバー人材センター役員・会員七十七名が参加。

最初に安全就業標語百九十九編の中から最優秀賞・優秀賞・入選の十一名を表彰。

続いて（公社）鳥取市シルバー人材センター理事（安全・適正就業部長）寺本敏昭氏及び（公社）

大山町シルバー人材センター事務局長近藤照秋氏から「安全・適正就業の取り組みについて」の安全講話があり、又「安全パトロールで感じたこと」を当

連合会柳楽孝鑑安全・適正就業パトロール指導員が発表しました。

参加者全員が心新たに安全・適正就業を再認識する研修会となりました。



○安全就業講習会

安全就業はシルバー事業の基本であることから昨年の草苳り講習に引き続き剪定・脚立使用就業に関する講習を実施。

- 八月二十一日 西部地区 参加者二十五名
- 八月二十六日 中部地区 参加者二十名
- 九月四日 東部地区 参加者十九名



○第二回事務局長会議

十月九日(木) 米子市において開催。
 (一)第二回都道府県連合事務局長会議伝達
 (二)全シ協業務部長から地域ニーズ対応事業及び福祉・家事援助サービス事業の進め方について説明を受けました。

○鳥取県経験交流大会

十一月十一日(火) 県内シルバー人材センター役員・会員及び市町村担当者八十名が参加。基調講演はNRI社会情報システム株式会社営業課長兼永敏博氏から「シルバー人材センターの会員拡大と就業開拓について」と題する基調講演がありました。次に「働くシルバー会員の健康管理について」(公

社) 米子広域シルバー人材センター安全・適正就業推進員の井元敏明氏からの講話。体験発表は「理事長に就任して思うこと」と題して(公社) 境港市シルバー人材センター理事長高松武美氏(公社) 湯梨浜町シルバー人材センター理事長小居貞歳氏。「事務局長に就任して」と題して(公社) 鳥取市シルバー人材センター専務理事兼事務局長山本雅宏氏、(公社) 南部広域シルバー人材センター専務理事兼事務局長尾健治氏、(公社) 琴浦町シルバー人材センター事務局長福本まり子氏から発表がありました。来年の再会を確認し閉会しました。



○生涯現役社会実現環境整備事業

本事業は、高齢者が健康で意欲と能力がある限り年齢にかかわらず働き続けることが出来るよう

高齢期における職業生活設計を高齢者が自ら行い、当該設計を踏まえた働き方を検討・実施することが出来るようセミナー等を実施することにより生涯現役社会の実現に向けた高齢者の環境整備を図ることを目的とするものです。

- 六月 十九日(鳥取市) 四十五名参加
- 七月二十四日(倉吉市) 四十二名参加
- 九月 十九日(米子市) 四十三名参加
- 十月二十二日(鳥取市) 四十名参加
- 十一月二十日(米子市) 三十九名参加



平成26年度シニアワークプログラム地域事業実施状況

鳥取労働局より「シニアワークプログラム地域事業」を受託し活動拠点の協力を得ながら、事業主団体及び企業と連携を図り多種多様な技能講習を実施しました。

講習修了時に受講者を対象に管理選考を実施し、又講習修了者及び一般の求職者を対象とした合同面接会を開催しました。

技能講習

	講習名	実施地区	講習日程	講習日数	定員	申込者	受講者	修了者
1	ボイラー取扱	鳥取	5/28～6/17	4	10	7	6	6
2	ビジネスパソコン	境港	5/27～6/6	9	10	15	14	14
3	小型移動式クレーン運転	鳥取	5/30～7/4	5	10	9	8	7
4	ビジネスパソコン①	鳥取	6/5～6/17	9	15	32	24	23
5	フォークリフト運転	鳥取	6/13～8/1	6	15	28	19	19
6	フォークリフト運転	米子	7/9～8/21	6	20	41	25	25
7	ビジネスパソコン	倉吉	7/16～7/29	9	15	16	14	14
8	調理アシスタント	鳥取	7/22～8/1	9	15	18	16	16
9	小型車両系建設機械運転	倉吉	7/31～8/8	4	10	17	13	13
10	ビジネスパソコン①	米子	8/19～8/29	9	15	28	20	19
11	調理アシスタント	倉吉	9/1～9/11	9	10	12	10	10
12	玉掛け	鳥取	9/3～9/29	5	10	9	9	9
13	家事援助	鳥取	9/8～9/18	8	15	12	12	11
14	剪定スタッフ	米子	9/22～10/3	9	15	19	15	13
15	フォークリフト運転	鳥取	9/26～11/7	6	15	22	15	14
16	調理アシスタント	米子	10/6～10/17	9	15	15	12	12
17	剪定スタッフ	鳥取	10/9～10/22	9	15	26	21	20
18	ボイラー取扱	米子	10/15～11/18	4	10	15	12	12
19	玉掛け	米子	10/15～11/18	5	15	4	3	3
20	フォークリフト運転	倉吉	10/23～12/5	6	10	20	12	11
21	ホテルスタッフ	鳥取	11/10～11/25	8	10	6	6	6
22	小型移動式クレーン運転	米子	11/11～12/18	5	15	7	4	3
23	フォークリフト運転	米子	11/14～1/7	6	20	22	16	15
24	ビジネスパソコン②	鳥取	12/2～12/12	9	15	29	23	23
25	ビジネスパソコン②	米子	12/8～12/18	9	15	27	20	19
					365	456	349	322

管理選考

	日程	管理選考名	参加企業	求人数	参加者	面接件数	採用数
東部地区	8月1日(金)	フォークリフト	3	15	18	3	0
		調理アシスタント			16	2	
	9月18日(木)	家事援助	3	33	11	16	0
	11月7日(金)	第2回フォークリフト	3	17	13	9	1
	11月25日(火)	ホテルスタッフ	3	75	6	18	1
	12月12日(金)	第2回ビジネスパソコン	3	142	23	12	保留
中部地区	7月29日(火)	ビジネスパソコン	1	2	14	0	0
	9月11日(木)	調理アシスタント	4	30	10	16	0
	12月5日(金)	フォークリフト	3	46	11	9	保留
西部地区	6月6日(金)	ビジネスパソコン境港	3	24	14	15	0
	8月21日(木)	フォークリフト	3	25	25	16	1
	8月29日(金)	ビジネスパソコン	4	11	20	15	2
	10月17日(金)	調理アシスタント	3	34	12	10	0
	11月18日(木)	ボイラー取扱	3	59	12	5	0
		玉掛け			3	2	
	12月18日(木)	小型移動式クレーン	4	95	3	1	保留
第2回ビジネスパソコン		19			21		
	1月7日(水)	第2回フォークリフト	3	23	13	8	保留

合同面接会

	日程	面接会開催地	参加企業	求人数	参加人数	うち講習 修了者	面接件数	採用数
東部	10月2日(木)	第1回 鳥取市	6	63	23	12	14	1
西部	10月8日(水)	第1回 米子市	5	58	21	17	19	0
西部	1月15日(木)	第2回 鳥取市	開催予定					
東部	1月20日(火)	倉吉市	開催予定					
中部	1月22日(木)	第2回 米子市	開催予定					



ビジネスパソコン講習管理選考（就職面談会）



高齢者のための合同面接会

講習会に参加して

ビジネスパソコン講習
に参加して



鳥取市 小林 温子

平成26年度シニアワークプログラム地域事業として、12月2日から9日間鳥取福祉文化会館を会場として、ビジネスパソコン講習が開催されました。

受講の動機は、ハローワークの職業相談時にスキルアップを望む現在のパソコン操作技術の不安な状況を知った窓口担当者の方から今回の講習を紹介され、早速その帰りにシルバー人材センターに申込書を届けました。6月に退職するまで書類作成、管理にパソコンを活用していましたが業特定のソフトを使用していたので自己流でも通用していたようです。ところが、退職後に以前と同業の他事業所に短期間通った時、使用するパソコンは初めてのWordで、今まで簡単に操作できたことが出来ないのです。自分の未熟さを自覚し基礎の基から学んで習得したいと強く願いスキルアップを求めて受講を希望しました。

講師は田淵先生です。受講者は男性10名、女性13名の中には『パソコンを見るのも触るのも今日が初めて』との受講者もいて講師助手の方が付きつきり指導されていました。

初日は「Wordの基礎知識」先生の説明を一言も聞き逃すまいと集中しましたが、指はキーボード

の上を迷っています。2日目から授業は興味深々の連続で、折角の講習を自分の中に吸収することに夢中になりました。

今回の講習を通して、あんなに困ったWord、Excelの機能を活用し操作出来る楽しさで、与えられたどんな文章、表の作成変更もできそうな小さな自信がもてました。

いつの日か、この習得した技術に自信をもって、就職面接に臨みたいと思いました。

9日間熱心に教えて下さった講師の先生方、又この講習を企画し学ぶ機会を与えて下さった鳥取県シルバー人材センター連合会の関係者の皆様、一緒に学ぶことが出来た受講者の皆様に感謝し厚く御礼申し上げます。



ビジネスパソコン講習及びフォークリフト運転技能講習に参加して



三朝町 小椋 一郎

平成26年度シニアワークプログラム地域事業としてビジネスパソコン講習が7月16日から9日間の日程で(宥)ほうき塾にて開催されました。受講生は14名で、講習初日は基本操作から始まり、インターネット、メール、ワード、エクセル、8日目はパワーポイントによるプレゼンテーションの作成を行いました。

受講の動機は、以前勤務していた会社でパソコンを使用していましたが、ワード、パワーポイントについては分かりませんでしたので、今回の受講で使用範囲が広がり、今後社会との関わりが出来ればと考えます。

次にフォークリフト運転講習を幸いにも引続き受講する事が出来ました。受講生は12名で、講習は10月23日から6日間の日程で開催され、2日目は新日本海新聞社中部本社で学科の座学が有り、最後に学科試験が有り、3日目からの3日間はJA鳥取中央東郷選果場にて実技講習を一般の方に混じり、9名と10名の2班に別れて行いました。当初は運転操作も不慣れでしたが、日を重ねる事に荷物の上げ下ろし作業及びS字、カーブ走行も出来るようになりました。特に荷物の上げ下ろし作業には気を遣いました。又、後進は重大事故に繋がるので、安全確認は必ず行うように教官の方より再々注意を受けました。講習3日目の午後3時頃より実技試験が有り、一応



大きなミスも無く終り、ほっとしたのを今も覚えて
います。6日目の12月5日に閉講式が有り、晴れて
免許を取得する事が出来て非常に嬉しく思い、又、
学科、実技講習と緊張して受講した事を思い出しま
した。今後、もう少し練習を重ね、就職活動に繋げ
たいと考えます。

お世話になりました講師の先生方をはじめ関係者
の皆様、鳥取県シルバー人材センター連合会の皆様
に、厚く感謝申し上げます。

ホテルスタッフ講習に参加して



岩美町 澤 典子

平成二十六年シニアワークプログラム地域事業
として、十一月十日から八日間の日程で、ホテルニ
ューオータニ鳥取で開講されました。参加者は、六
名でした。

一日目から三日目の午前中まで、サービスの基本
をプロ中のプロから学びました。

実践を繰り返しながら、とても引き付けられる講
座内容でした。その後レストランサービスを学び、
厨房で調理補助を行い、宴会セッティング研修を行
いました。

そして、ホテルの客室でハウスキーピングの研修
があり、ベットメイキングの方法を習い、客室の清
掃も習いました。

今回の講習を通して、日頃利用する立場から現場
を知る事が出来、貴重な経験をさせていただきました。
今回の講習で学んだ事を活かしながら、就職・
地域活動に生かしていきたいと思えます。

お世話になりました講師の先生方をはじめ関係機
関の皆様、お世話をいただきました鳥取県シルバー
人材センター連合会の皆様には厚くお礼申し上げます。



シルバー人材センターの紹介

公益社団法人 湯梨浜町シルバー人材センター

事務局長 米村 繁治

湯梨浜町シルバー人材センターは、平成十五年に旧町の羽合町・東郷町の両センターが広域合併した



ものが組織の基礎となり、平成十六年十月の湯梨浜町誕生と同時に現在のセンターとなり、平成二十五年四月に公益法人となりました。
東郷池の地下から湧き出るわい温泉と東郷温泉の観光産業や県立東郷湖羽合臨海公園を中心とする風光明媚な地域です。それらに関連するシルバー就業者の受注機会にも恵まれています。



独自事業には、地域の特長を活かせることから、時季限定のミニ門松の製作販売や休耕地を活用したシルバー農園事業でじゃがいもとさつまいもの栽培

を行っております。
農業委員会から情報提供してもらって利用権設定を三年間締結して耕作をしております。
有機減農薬で栽培した収穫物は、町内の学校給食に材料提供しております。



また、収穫した安納芋に限っては、町内のケーキ店とコラボレーションして洋菓子の原材料供給しております。昨年は町主催の地産地消ゆりはま市に初めて出店して、石焼き芋などの販売で町民の方々に喜んでいただきました。

一般社団法人 八頭町シルバー人材センター

事務局長 矢山 貢

八頭町は県東部（旧郡家町・八東町・船岡町）が合併し、今年で十年目を迎え世帯数六、〇三五軒、人口一八、二二五人、高齢者率三〇、四％の町です。農業が主な産業、その他各町村と同じ様に、明るくも楽しくも、又た皆さんの課題を抱えて町の行政も厳しく頑張っているところです。さて当センターは



高齢化の課題を受けてお年寄りからの仕事の依頼も増え、おかげ様で実績も順調に推移してはいますが・・・。単純に高齢化、シルバー世代が増えていると云えども、会員増加が見込めない難しい時代を迎えつつあります。現在一四〇人の会員は地域とも連携し、信頼も得て楽しく生き生きと就業の毎日ですが、どうしても避けられない会員自身の高齢化、励ましようのない現実にも直面しております。昨年度と引き続き今年度も会員の増、女性会員の増について専心集中して行こうと理事十一名、監事二名、事務局長、職員二名、力をあわせ合言葉にしているところです。明るく挨拶のできる事務所、安心安全な就業を言葉かけ、会員と事務所と受注者の橋渡しを頑



張っています。

就業の内容もあまり変化はありませんが、町内の困っておられる人達、特に高齢の方の支援を細やかな作業で対応できたらと思っています。小さな組織です。シルバーを取りまく環境が厳しくなる一方で、存続の危機感は念頭にはありますが、とにかく高齢者の就業を通じて会員の生きがいとはもとより、必ずなごやかに地域に貢献でき、喜びを共有できるシルバーをめざして今後とも役割を果たして行きます。ぜひ県内各シルバーの皆様にも応援をよろしくお願います。



会員の広場

未就業者会員にも

出番の好機会を



公益社団法人
米子広域シルバー人材センター
会員 はせがわ あきみ

県シ連役員理事の方々に要請します。シルバーの仲間でありながら理もれがちな未就業会員のため、出番の仕組みを立案して下さい。シルバーの現状は「就業は光、未就業は影」の関係です。表と裏があります。会員個人は表と裏をゆききします。就業の面は耕され手入れされますが、未就業の面はまるで休耕田、否、耕作放棄地の有様です。シルバーを退会する会員が後をたたないのは未就業状態を耕作放棄状態と思うからではないでしょうか。

私は地域班長の役をいた、だいていてその経験から、就業会員は就業を介して会員同士の出会いがある反面、未就業会員は出会いの機会が無く、自然にシルバー組織への帰属意識が薄らぐのを知りました。

県シ連の会報（28号）を読むと、団体会員は大なり小なり個人会員数の減少を問題視しながら打つ手を考えあぐね、悩み困っている様子です。個人会員数を問題とするなら対前年比だけでなく、鳥取県人口と過疎県の経済規模に見合った標準的なシルバー会員数をはじきだした上で比較すべきでしょう。

減る人数だけが問題なのではない。退いてゆく会員、つまり人が、シルバーの仲間が離れてゆくのが問題なのです。組織に入っても居場所が無ければだ

れであれ組織を見限って出るでしょう。未就業会員のための居場所づくり、出番を立案して下さい。一年間の調査研究期間を経て立案して下さい。

就業会員が働くのも役割、外の現場で働くから外番です。未就業会員の役割は外ではなく内側、シルバー組織を内から支えるものですから内番です。内助の功の内助と同じ役割です。たとえば、

①役員に就く（理事、班長、連絡員、委員）

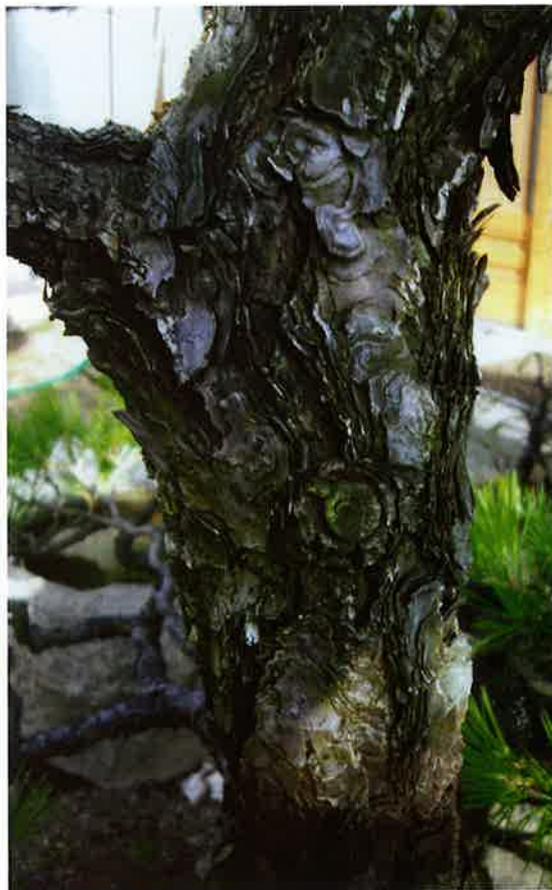
②事務局スタッフ補助に就く（定例総会や各種会議の司会進行、記録とまとめ、資料作成、電話の応対、清掃整理整頓）

③会員同士の交流機会の立案準備とガイド（歩く、巡る、踊る、歌う、描く、作る、食べるなど趣味娯楽。学ぶ、調べる、発表する交流）

シルバー会員はだれであっても未就業状態の時期があります。未就業であっても内助の役割を引き受けることで、シルバー制度の仕組みを知り、よりよい制度利用も生まれるでしょう。

出番（組織的な内助）の仕組みを立案するのに一年、案文を試行するのに一年、必要な経費は県シ連がやりくりして下さい。試行は会員自らの

研修ですから参加者は応分の参加費を負担します。就業と未就業の関係は光と影、表と裏でありながら実は一体なのですから。夢をデッサンしてみました。やがて年が明けます。初夢が正夢になりますように。



庭の松の木肌

会員の広場

ボランティア活動を実施して

日南町シルバー人材センター

事務局長 塩 見 克 己

毎年、十月の普及促進月間に合わせて公共施設の環境整備を行っていますが、参加者が少なく、十



分な作業奉仕ができません。

日頃、仕事の提供をいただきながら補助金等の支援を受けておりますが、少しでもと会員の皆さまに参加を呼びかけてはいますが、なかなか浸透しません。

当日参加した会員は、限られた時間内に、一生懸命作業をするわけですが、高齢者が多く、将来続けて行くのが不安です。

当日は、連合会から安全就業の指導と、パトロールを兼ねて来ていただいて、お話を聞き、大変参考になりました。

幸いに、当日南町では、ここしばらくは無事故で営業しておりますが、何時何処で事故が発生してもおかしくありません。

無事故は、それぞれの作業班で周知徹底を図り、お互いが安全に対し相互けん制し、基本に返って、繰り返し繰り返し実行してこそ成果が上がるものです。安全就業推進委員だけが幾ら頑張っても、皆様の理解と協力がなくては事故は減りません。当日の、指導員さんのお話を、機会を見ては会員に周知する必要があると思います。

お蔭様で、ボランティアの誠意を認めていただき、追加の仕事の注文を受けて、剪定作業をすることが出来、会員も益々仕事に対する意気込みが増して来ております。

今、事故が一番多いのは、庭木の剪定作業ですが、まず、作業現場を事前に調べて、安全を十分に確認してから行うことです。

尚、安全のための装具も重要なポイントになり、多少の費用を掛けてでも着用して作業をしてほしいと思います。

まさに、”ごろばぬ先の杖ですね”



趣味のひとつとき

公益社団法人

鳥取市シルバー人材センター

会員 太田 義久



私が、鳥取市陶芸教室で陶芸を始めたのは、四年前で、シルバー人材センターに入会した五ヶ月後でした。それは、陶芸教室と、シルバー人材センターが同じ建物の中にあることと、以前から陶芸に興味があったからです。

毎月一作品、決められたテーマのものを作ってい

ます。また、年に二回陶芸作品の展示会があり、出展しています。このほか、陶芸教室のメンバーと、窯元の見学を兼ねた、旅行や懇親会があります。これは、従来の職場の人とは違った経験や、新たな刺激を受けることができるいい機会だと思っています。作品の方は、なかなか上達したと言える程のものできていませんが、自分で考えたオリジナルなものができるかと、窯出しの時にワクワクすることも多いです。でも結果はがっかりすることのほうがいいです。



でも、シルバー人材センターの仕事と、陶芸を続けられるのは、周りの人の協力があってできていると思っています。ですからシルバー人材センターで

の人間関係も、陶芸教室での人間関係も大事にしたいと思っています。

こうした背景の中、満足のできる作品が作れるよう更に頑張つて努力していきたいです。

そのためには、釉薬の知識をもっとつけなければなりません。また、本焼きの時の窯の状況や、それに対応できる判断力も必要です。

時々、シルバー人材センターの仕事も、陶芸も投げ出したくなる時もありますが、どちらも両立して続けられるよう自分自身を奮い立たせながらやっているのが現状です。

折角の自分の人生、何もしないで無駄に過ごしたくないと思つて頑張っています。



●鳥取県の最低賃金●

最低賃金は、最低賃金法に基づいて決定されたもので、鳥取県内では、使用者はこれより低い賃金で労働者を使用することはできません。

◎鳥取県内の事業所で働くすべての労働者とその使用者に適用される

鳥取県最低賃金 (1時間 677 円)	発効年月日 平成26年10月8日
-------------------------------	---------------------

◎鳥取県内の特定の産業で働く労働者とその使用者に適用される

鳥取県電気機械器具・情報通信機械器具 ・電子回路・部品デバイス製造業最低賃金 (1時間 743 円)	発効年月日 平成26年12月25日
---	----------------------

鳥取県各種商品小売業最低賃金 (1時間 700 円)	発効年月日 平成26年12月13日
--------------------------------------	----------------------

※詳細については、鳥取労働局賃金室又は最寄りの労働基準監督署にお尋ね下さい。

鳥取労働局賃金室	電話(0857)29-1705
鳥取労働基準監督署	電話(0857)24-3211
米子労働基準監督署	電話(0859)34-2231
倉吉労働基準監督署	電話(0858)22-6274

※シルバー会員の配分金について

シルバー人材センターが受注する仕事の対価については、当該地域における類似の仕事の対価に比べて著しく低くならないように留意し、仕事の見積基準等は、地域の最低賃金や業界の一般的な基準を参考にすることが必要です。

公益社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会 正会員名簿

名 称	代表者	〒	所 在 地	電話番号
公益社団法人 鳥取市シルバー人材センター	西根 弘康	680-0845	鳥取市富安2-104-1	0857-22-0050
公益社団法人 米子広域シルバー人材センター	宇野 治己	683-0811	米子市錦町1-110	0859-32-2633
公益社団法人 倉吉市シルバー人材センター	山脇 誠	682-0816	倉吉市駄経寺町2-8-1	0858-22-0870
公益社団法人 境港市シルバー人材センター	高松 武美	684-0034	境港市昭和町11-22	0859-47-4540
公益社団法人 南部広域シルバー人材センター	安達 幸男	683-0351	西伯郡南部町法勝寺170	0859-66-4011
公益社団法人 智頭町シルバー人材センター	小林 實夫	689-1402	八頭郡智頭町智頭1795-1	0858-75-0170
公益社団法人 岩美町シルバー人材センター	谷口 幹彦	681-0003	岩美郡岩美町浦富1041-1	0857-72-2511
公益社団法人 湯梨浜町シルバー人材センター	小居 貞歳	682-0712	東伯郡湯梨浜町上浅津123-1	0858-35-4130
公益社団法人 琴浦町シルバー人材センター	田中 明	689-2316	東伯郡琴浦町下伊勢196-3	0858-52-1001
公益社団法人 北栄町シルバー人材センター	日置 勝彦	689-2103	東伯郡北栄町田井46-2	0858-36-6220
公益社団法人 大山町シルバー人材センター	近藤 昭夫	689-3332	西伯郡大山町末長269-1	0859-53-4787
一般社団法人 八頭町シルバー人材センター	衣笠 春壽	680-0463	八頭郡八頭町宮谷254-1	0858-72-3351
江府町シルバー人材センター	山本 信男	689-4413	日野郡江府町洲河崎62	0859-75-3211
日南町シルバー人材センター	池岡 利行	689-5211	日野郡日南町生山397-1	0859-82-0223
三朝町シルバー人材センター	馬野 忠嗣	682-0152	東伯郡三朝町本泉359-1	0858-43-1883

表紙のことば

市民がつくった水鳥の楽園「米子水鳥公園」

米子水鳥公園は、広さ約二十八haを誇る水鳥のサンクチュアリ(保護区)。公園がある中海周辺は、国内で確認された野鳥のうちおよそ四十二%の種類が記録されており、山陰屈指の野鳥の生息地です。

コハクチョウの集団越冬は西日本最大級を誇り、ガン・カモ類は年平均七万五千羽以上が飛来する国内最大級の飛来地でもあります。一年を通じて、水鳥や様々な生き物たちの営みを観察することができます貴重な湿地です。

あとがき

皆様のご協力によりまして、第二十九号を発行することができました。厚くお礼申し上げます。

平成26年度は、消費税率引上げで始まり、年末には経済政策アベノミクスの効果を問う衆議院の解散、総選挙、円相場は120円台を付け、株価は上昇するも、輸入関連の物価上昇で、家計を圧迫しております。

今年こそ皆様のご健康で幸福な一年になりますことを祈念しております。

会報鳥取 第29号
平成27年1月発行

発行：公益社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会
所在地：〒683-0812 鳥取県米子市角盤町1丁目76
電話：0859-37-2531
FAX：0859-37-2537